

積極的疫学調査の重点化について

患者の重症化防止に力点を置いた積極的疫学調査へ切り替え
【令和4年1月25日から当面の間】

これまでの積極的疫学調査

濃厚接触者や感染経路を個々に把握して感染の連鎖を防ぐ



オミクロン株の感染急拡大



このままでは・・・

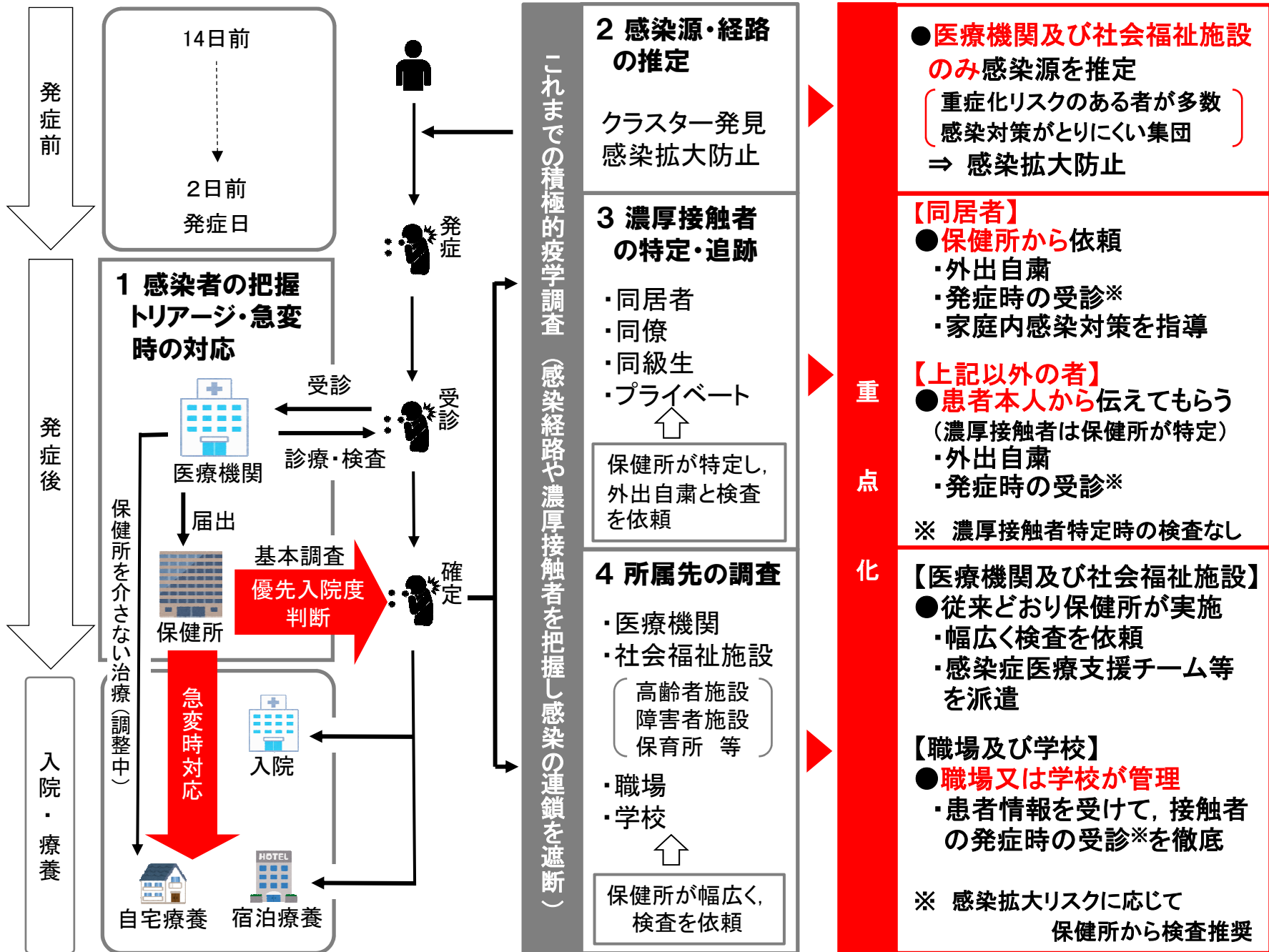
保健所業務のひっ迫

- 患者数の増大に伴い、濃厚接触者は勿論、**患者への対応が十分にできなくなる。**
 - ・ 新規患者への基本調査(優先入院度判断)
 - ・ 自宅療養者の急変時対応
- **高齢者施設等で発生するクラスターへの対応ができなくなり、重症者が多発し、公衆衛生及び医療への大きな脅威となる。**

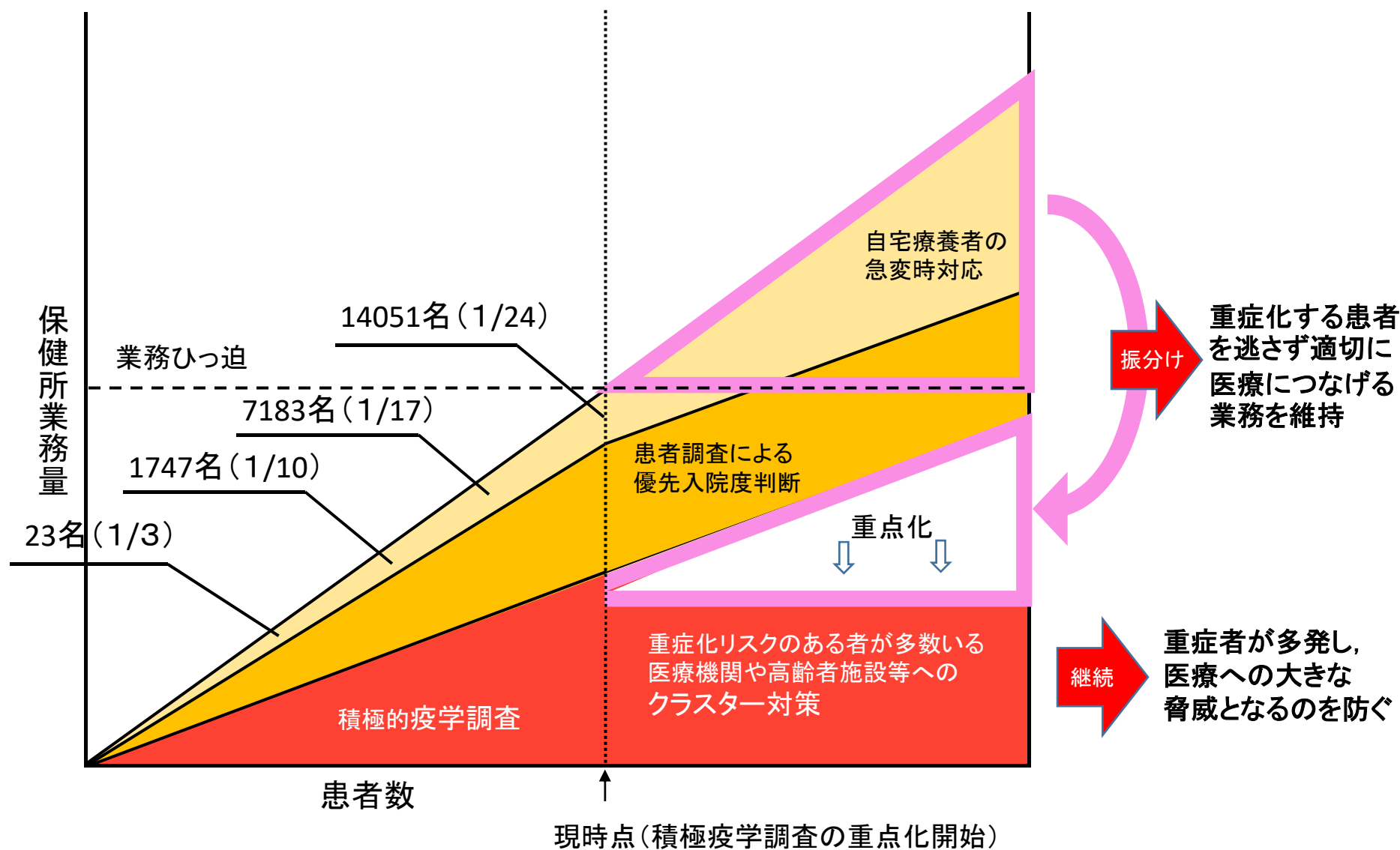
積極的疫学調査の意義の低下

- **感染経路不明の割合**(現在、約60%)が**増加**し、調査を徹底しても、感染の連鎖が遮断しがたくなる。
- **濃厚接触者の特定に遅れが生じ**、従来株よりも潜伏期間が短いオミクロン株にあっては、**保健所が把握した時点で、既に発症している濃厚接触者が多くなる。**

積極的疫学調査の重点化の概要



患者全員に関与する保健所業務の合理化による患者の重症化防止



積極的疫学調査の重点化により、保健所の関与が少なくなる部分(濃厚接触者対応, 所属先(職場, 学校)の調査)については、県民の皆様のご理解・ご協力をお願いします。